

遠隔部位への炎症伝播機構解明

北大遺制研
村上教授ら

新規ゲートウェイ反射発見

関節リウマチ等治療応用期待

北大遺伝子制御研究所分子神経免疫学分野(量子科学技術研究開発機構量子生命科学研究所自然科学研究機構生理学研究所)の村上正晃教授らの共同研究グループは、複数の関節リウマチモデルを用い、関節内の炎症病変を逆側関節内に左右対称に伝播させる分子機構「遠隔炎症ゲートウェイ反射」を発見したと発表した。この機構の神経回路と、炎症で生じるATP(アデノシン三リン酸)は、関節リウマチや間質性肺炎、乾癬などの遠隔炎症を引き起こす炎症性疾患の治療標的になることが期待されるとしている。

村上教授らはこれまで重力、痛み、ストレス、電気や光などの環境刺激や人為的刺激が組織特異

的神経回路を活性化し、特定の血管部位に炎症性疾患を誘導・制御する「ゲートウェイ反射」と、IL-6シグナルが当該血管部位を極めて局所炎症を誘導する炎症増幅回路の詳細な分子機構は不明だった。また、間質性肺炎、乾癬などの炎症性疾患でも同様の病態がある。グループはこれらの病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基



礎となる。炎症で生じるATP(アデノシン三リン酸)は、関節リウマチや間質性肺炎、乾癬などの遠隔炎症を引き起こす炎症性疾患の治療標的になることが期待されるとしている。

IL-6シグナルが当該血管部位を極めて局所炎症を誘導する炎症増幅回路の詳細な分子機構は不明だった。また、間質性肺炎、乾癬などの炎症性疾患でも同様の病態がある。グループはこれらの病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基

関節リウマチでは、遠隔部位に左右対称の炎症病変が形成され、診断基